



木の葉の舟流し

(鎮魂の思いを東北に届けたい)

主催	八幡小学校 森はな顕彰会
日時	令和2年2月12日(金) 午前10時55分～(45分間)
場所	八幡小学校 多目的教室3F
内容	<p>今年で3回目となる「木の葉の舟流し」、東日本大震災で被災したお宅にポツンと残された「じろはったん」の本は、加古川在住だった森はな先生の作品でした。主人公じろはちが親友を偲んでタイサンボクの葉に思いを書いて流したことに因んで、東日本で被害にあった方々に、八幡小の児童が思いを届けます。</p> <p>当日は、1年生は「じろはったん」のお話を知らないなので、図書ボランティアの方々がお話のたいを挿し絵のスライドを使いながら教えてくださいます。他の学年は2/15(月)から18日までの任意の時間にタイサンボクに思いを綴ります。</p> <p>(初めて ・ 恒例 ・ 3回目)</p>
対象(参加者)	八幡小学校児童
定員	
参加費	なし
申込先・方法	
目的・背景 その他	
市ホームページ	掲載済み ・ 掲載予定(●月●日) ・ 掲載しない
広報かこがわ	●月号に掲載 ・ ●月号に掲載予定 ・ 掲載しない

問合せ先

加古川市立 八幡小学校 (担当: 杉本・田中)

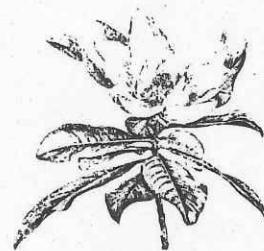
☎079-438-0069

3.11 あの日を忘れない

木の葉の舟に思いをのせて



東日本大震災の追悼行事「木の葉の舟流し」は、津波の日、奇跡的に家に残った1冊の本「じろはったん」から生まれた震災行事です。始めて、4年目。昨年の3.11には、被災地の福島県、宮城県や森はなさんの生誕地の朝来市や、ゆかりの高砂市、加古川市、姫路市、加西市の小学生らが鎮魂や復興、未来への希望や夢を記した約8,000枚のタイサンボクの葉が、福島県相馬市の海岸から、木の葉の舟として流されました。



参加した子どもたち、人々にとって、被災された方々に思いを馳せ、命や未来を考える良い機会になったように思います。

兵庫県では、1995年1月17日早朝、未曾有の大震災が起きました。震災後25年の年月が流れ復興が進みましたが、被災された方々の悲しみを今も思わないではられません。

今年もまた、3.11が巡ってきます。東日本大震災で犠牲になられた方々への追悼の気持ちを込めてタイサンボクの葉にメッセージを記しませんか。

メッセージの内容は

- ①復興へのメッセージ
 - ②未来への希望や夢
 - ③犠牲者への手紙
- などです。

タイサンボクの葉の表、裏、どちらに記入されても構いません。東日本大震災被災地へのメッセージを木の葉の舟にのせましょう。ご協力をお願い致します。

森はな顕彰会